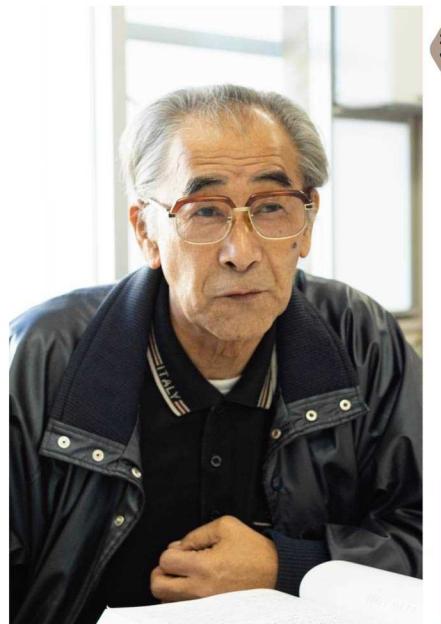


拓北・あいの里地区 民生委員・児童委員

CASE.03

Town planning
in North



私が思う、
北区の魅力・好きな場所

札幌の中でも特に歴史がある篠路には、それを今に伝える場所が残っています。「龍雲寺」の境内には荒井金助、早山清太郎ゆかりの地の碑があつたり、「北区歴史と文化の八十八選」に選ばれているイチョウの木があつたり。ほかにも歴史を伝える場所がたくさんあることが魅力です。

**拓北・あいの里地区 民生委員・児童委員
加藤 隆治さん**

民生委員を15年、消防団は36年、安全協会の活動にも貢献。
「篠路地区的資料館を札幌の子どもたちに残したいですね」。

「本当のことが知りたい性分なんですよ」と、加藤さんは照れ笑いを浮かべます。小学生時代の授業がきっかけで、地域の歴史を探求するように。書物を読んだり、詳しい人に話を聞いたり、独自に情報を収集しました。特に興味を持ったのが、幕末から明治にかけて北海道開拓に大きく貢献した、荒井金助と早山清太郎のこと。幕府の役人だった荒井金助は、武士を率いて篠路に入植した人物です。農民として汗を流した早山清太郎は、石狩で初めて米作りを行いました。この2人がいなければ、今の北海道はありません」と加藤さん。しかし、この2人が札幌を切り開いたことは、あまり知られていません。加藤さんは、「札幌の父とも呼べる荒井金助と早山清太郎

について、もっと多くの人たちに知ってもらいたいという思いがあります。

「札幌中の子どもたちに、伝えたい。そのためには、篠路の資料館を造ることができたら」と大きな夢を語ります。

JRあいの里教育大駅の前を歩きながら、「子どもの頃、ここには線路しかなくて、畑の中をうしろが走っていた光景が今も目に焼き付いています。冬は、よく父親と一緒に農機具を買ったため札幌駅まで馬そりで出掛けたのです」と、懐かしさを語ります。「今は、何でもここでそろそく、随分、暮らしやすくなりましたね」と田を細める加藤さん。その言葉には、この地の開拓や発展に尽力した先人たちへの感謝が込められています。



札幌市議会議員として北区の発展にも貢献した父、加藤隆司さんの記念誌と篠路発祥の地の碑



札幌中の子どもたちに知つてほしい開拓の歴史が、北区にある。いつか、地域に資料館ができたら。

そんな加藤さんは北区の歴史に明るく、周囲から「生き字引」と呼ばれています。

(※) 明治 15 (1882) 年、徳島県出身の滝本五郎が創設した農産組織で藍の栽培が明治末まで行なわれた。